学校番号	1012

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	漢字仮名交じりの書	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

私たちの身の回り、日常生活の中に溢れている「書」に注目し、書道作品は芸術作品としての特別なものだけではなく、私たちの生活に溶け込むそれらの文字や言葉が果たす役割や効果を考える。また自身の生活の中に「書」を感じる時間や空間を作る。

2　学習の到達目標

展覧会に展示されている特別な芸術性の高い書作品だけでなく、日常の中に「書」が溢れることがどのような意味をもち、どのような効果や役割を果たしているか活動を通して考える。古典作品を学習する中で多彩な表現方法を会得、漢字と仮名を調和させて書くなど技術を応用し、現代的な感覚で表現できることを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の創造的活動や反復練習で喜びや達成感を味わい、主体的に書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表現している。	・書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、様々な書体の美を味わい捉えている。	日常生活に溢れる筆文字に興味関心をもち、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

1		生活や社会の中の文字や書に触れる 書体の特徴を理解し、作品にいかす ・篆書の学習 ・隷書の学習 ・草書の学習 ・行書の学習 ・楷書の学習	a: 書写と書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について興味を持ち、理解しようとしている。 b: 古典のよさや美しさを感じとり、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や書の味わいとの関りについて理解している。 c: 姿勢や執筆法の基本を理解し、表現している。 c: 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	作品	作品	振り返り 活動の様子
2		パッケージをデザインしよう 身近な商品について調べ、コンセプトに合った手書き文字を提案する 漢字仮名交じりの書 卒業作品のテーマを決め、書体、構成について考える	a:用具、用材の特徴と表現効果において用筆、運筆について理解している。 a:線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解している。 a:目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 b:漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に基づいた表現で工夫している。 b:生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 c:自身の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書に特質に基づく表現で学習活動に主体的に取り組もうとしている。	作品	作品	振り返り 活 動 の様子
3		卒業作品表装 ・卒業作品を裏打ちし、パネルに表装する ・展示、鑑賞	a:表装の手順を正しく理解している。 b:裏打ちや表装をすることによって作品にどのような効果を与えるのか考えることができる。 c:鑑賞によって作品制作における意図を感じ取り、自身の言葉で伝えようとしている。	作品	作品	振り返り 活 動 の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度